

自己評価表

学校法人平成医療学園
横浜医療専門学校

1. 学校の教育目標と本年度の重点目標の評価

本校は、徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成することを目的として、発足当時から産・学が連携し、社会で必要とされる高度な知識と技術を身に付けた人間性豊かな「次代の医療人」を育成する。

また、本校では、以下の3つのポリシーに基づいて、医療職業分野や国際社会において、専門性を身に付け、医療人・国際人として必要な人間性やモラルを養成する。

- ①アドミッションポリシー：将来医療人そして世界的に活躍できる国際人として、「人類の健康や健やかな生活」に寄与できる人材を育成する。
- ②カリキュラムポリシー：3年間の医療専門課程での学びにおいて教育課程で段階的、系統的に教育できるよう各科目を設定している。
- ③ディプロマポリシー：所定の単位を修得し、規定の能力を身につけた者に対して称号を授与する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 授業の質を高め知識と技術を身に付ける
- (2) 医療に携わるものとしての心構えの育成（人間力の育成）
- (3) 退学者・欠席者の対策
- (4) 国家試験への対策
- (5) 卒業後の進路の充実
- (6) 実技分野の質を高め臨床力を育てる

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(1) 教育理念・目標・育成人材

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|--|---------|---|
| ①理念・目的・目標・育成人材像は定められているか | ④・3・2・1 | 現場で役に立つ医療人・思いやりの心を持った医療人などを育てる事を、目標にして人材育成をしている。 |
| ②学校における職業教育の特色は何か | ④・3・2・1 | 国家試験に出題される範囲の修得は勿論だが、現場で役に立つ技術・知識を身に付けさせることを意識して、即戦力となる医療人を育成する事を目標としている。 またゼミナール等で外部と接触することにより閉鎖的になりがちな学校という環境と現場の情報を交換することにより教育効果を高めている。 |
| ③社会・各科のニーズ等に合っているか | 4・③・2・1 | 職業実践専門課程の中で、毎年変化していくニーズを取り込むようにしている。 超音波画像診断・東洋医学的法診断・検査法・触診法等を取り組む必要があるという指摘を受けていたので取り込んでいる最中である。 |
| ④理念・目的・育成人材像は、将来構想などが学生・保護者などに周知されているか | 4・③・2・1 | 学生のしおりを配布しその中に記載して周知を行っている。 |

<課題>

授業・補習・学生が質問に来やすい環境づくり等で授業時間外でも指導教育ができるように努めているが、一定数勉強についていけない学生がいる。その中にはやむを得ない理由により欠席をしたことにより授業が進んだことにより、内容がわからないようになり、そのようなことが積み重なり勉強についていけない事案が発生している。

<今後の改善方策>

- ・小テスト等を行うことにより早期に躓きを発見し指導を行っていきたい。
- ・欠席者に関しては、欠席した授業のレポート提出を、義務付けさせて学生自身で調べる・纏める癖をつけさせていきたい。

<特記事項>

特になし。

(2) 学校運営

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|--|---------|---|
| ①目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4・③・2・1 | PDCA サイクルを確認し方針に沿った動きになるようにしている。 |
| ②事業計画に沿った運営方針が策定されているか | ④・3・2・1 | 法人本部との会議を定期的に行うことにより運営側と現場簿意見とのすり合わせを行っている。 |
| ③運営組織や意思決定機能は、規則などにおいて明確化されているか、また有効に機能しているか | 4・③・2・1 | 組織図を作成し指揮系統を明確化している。 |
| ④人事、給与に関する制度は整備されているか | 4・3・2・1 | 人事・給与については学校法人 平成医療学園 各種就業規則・学校法人 平成医療学園 各種給与規定により定められている。 |
| ⑤教務・財務などの組織整備など意思決定システムは整備されているか | ④・3・2・1 | 法人本部と定期的に会議を開催し財務状況や教務報告をしている。 その情報を基に検討を行い、稟議を作成している。 |
| ⑥教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 4・3・2・1 | ホームページを中心に情報公開を行っている。 |
| ⑦情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4・③・2・1 | グループセッションやグーグルホーム等を使用して教員間同士・教員から学生・学生から教員の連絡ができるよう取り組んでいる。 |

<課題>

・その場で判断をしないといけないことなどがあった。直属の上司が不在のことがあり、指揮系統に沿って動けていないことがあり、その指示内容・状況・経過が直属の上司に伝わっていないことがある。

<今後の改善方策>

・急遽の判断が必要な場合は、直属の上司以外にも判断・指示を仰がないといけないことがある。
そのような事態が生じた場合は、その指示内容・状況・経過を直属の上司に必ず連絡を行う様に徹底する。
・メール等で指示を行う場合には、CC等で直属の上司・関係者等を入れて伝達ミスをなくすようにする。

<特記事項>

特になし。

(3) 教育活動（柔道整復師科）

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|---|---------|--|
| ①教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているのか | 4・③・2・1 | 臨床家を育てる教育と国家試験合格させる教育の狭間をどう埋めていくことができるかが課題である。 |
| ②一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間が確保にされているか | 4・③・2・1 | 一定の到達レベル＝国家資格を取得させる教育目標は国家試験のレベルも上がり達成が年々厳しくなっている。履修時間以外の学習時間を学生に与えるかが課題である。 |
| ③学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか | ④・3・2・1 | 「統合教育」の時間を有効に使い学科の特徴を出し毎年アップグレードしている。 |
| ④医療人の職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているのか | 4・③・2・1 | 「臨床教育」の充実を図りながら、教員も附属施術所にて臨床経験を積んでいる。 |
| ⑤関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4・③・2・1 | コロナ禍という事もあり積極的な意見交換が出来なかった。 |
| ⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか | 4・③・2・1 | これまでの意見と取り組みながら行われているが、コロナ禍からアップグレードされていない。 |
| ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか | 4・③・2・1 | 授業評価は毎回実施されているがフィードバックが遅れや、教員個人評価に反映されていないところが課題である。 |
| ⑧職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4・3・②・1 | コロナ禍という事もあり積極的な意見交換ができなかった。 |
| ⑨成績評価・単位認定・進級判定・卒業判定の基準は明確になっているか | ④・3・2・1 | 「学生のしおり」にて明確になっている。 |
| ⑩資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか | 4・3・②・1 | 学科で設けた国家試験目標合格率に満たなかった。指導方法等検討が必要である。 |
| ⑪教育理念・教育目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4・3・②・1 | 臨床経験が豊富な教員と学校教育が豊富な教員のバランスを取りながら、新入教員の育成が必要だが、新入教員の確保が出来ていない。 |
| ⑫関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保する取り組みが行われているか | 4・3・②・1 | 非常勤含め技術に長けている人材確保が必要である。 |
| ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のため取り組みが行われているか | 4・3・②・1 | 教員各自が外部の研修に参加することが少なく、また学校としてのバックアップもない為に教員の意識改革が必要である。 |

<課題>

| |
|--------------------------------|
| ① 臨床教育と国家試験合格を目指す学校教育の融合 |
| ② 国家試験合格率の低下および3年生の国家試験受験者数の低下 |

<今後の改善方策>

教員それぞれのスキルアップと学生情報の教員間での共有ができるような仕組み作りが今後の改善方法と考える

<特記事項>

特になし。

(3) 教育活動 (鍼灸師科)

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|--|---------|---|
| ①教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているのか | 4・③・2・1 | 基礎分野の科目である「コミュニケーション」や課外授業であるゼミナールを開講することで、より現場のニーズに適切できる人材育成に取り組めた。 |
| ②一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間が確保されているか | 4・③・2・1 | 3年間の時間数を2680時間と十分に取られ、総合領域や統合教育で各学年に応じた専門分野の充実を図っている。 |
| ③学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか | 4・③・2・1 | 基礎分野で一部専門分野に関する内容が展開されていることや、2年次の科目によっては専門基礎分野の基礎と臨床の内容が同時期に進行せざるを得ない等、苦慮するものもある。 |
| ④医療人の職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているのか | 4・③・2・1 | 専任教員によって構成される各種委員会によって、職業教育の視点に則ったカリキュラムの見直しや、作成が毎年行われている。 |
| ⑤関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | ④・3・2・1 | 教育課程編成委員会の開催で、業界団体および臨床経験の深い先生からのご意見や改善点などを指摘・教授いただき、常に改善に努めている。 |
| ⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携による実技・実習等)がカリキュラムに組み込まれているか | ④・3・2・1 | 各学年の専門分野(総合領域)において実技・実習・演習を企業からの派遣講師による鍼や灸の製造工程や院の経営等に関する特別授業を行っている。 |
| ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか | ④・3・2・1 | 前期・後期ともに授業終了後、専任教員非常勤教員すべての授業評価アンケートを実施し、その結果を教員に還元する事で、より良い授業を行うためのフィードバックに活かしてもらっている。 |
| ⑧職業に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | ④・3・2・1 | 1年に2回、教育課程編成委員会が開催され、業界関係者や有識者からのご意見を頂戴し、カリキュラムに反映することで、教育の向上に努めている。 |

| | | |
|---|---------|---|
| ⑨成績評価・単位認定・進級判定・卒業判定の基準は明確になっているか | 4・③・2・1 | 各学年の年度当初に「学生のしおり」に明記されている成績評価・単位認定・進級判定・卒業判定の基準に関する読み合わせをおこなう事で、学校と学生との間での認識の差異や齟齬が無いよう努めている。 |
| ⑩資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか | 4・③・2・1 | 各学年に学年担当教員を2名～3名置くことで、資格取得までのきめ細やかな指導体制を構築しており、公私にわたる面談と生活・学習の指導を行っている。 |
| ⑪教育理念・教育目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4・③・2・1 | 教員の資質向上に向けて学内において、外部講師を招いての教員研修会を実施し、より良い授業や教育を行なえるよう努めている。 |
| ⑫関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保する取り組みが行われているか | 4・③・2・1 | 教員養成科を要する学校や施設と連携することで、教員の欠員に対し即座に優れた教員を確保できるよう取り組んでいる。 |
| ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のため取り組みが行われているか | 4・③・2・1 | 教育課程編成委員会や教員研修会を開催し、外部講師からの意見や講義を受ける事で、業界の最先端知識や技能の修得に繋がるよう努めている。 |

<課題>

入学生や在校生の業界的ニーズである「鍼灸師としてのスポーツトレーナー」に関する分野がカリキュラムに十分に盛り込まれていない現状がある。

<今後の改善方策>

臨床のスペシャリストや現場経験豊富な臨床家や指導者を、教員あるいは施術所のスタッフなどで採用していくことも必要であると考える。

<特記事項>

コロナ禍によって叶わなかった学校行事などが少しずつ実施できるようになってきたことから、学生の鍼灸の学びへの興味やモチベーションが向上してきたように感じている。

4) 学修成果

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|---|---------|---|
| ① 就職率の向上が図られているか | 4・③・2・1 | 就職説明会を実施し積極的に学生が就職内定を取れるように促している。 |
| ②資格修得率の向上が図られているか | 4・3・②・1 | 鍼灸・柔整共に入学者数から資格取得数を割り出し資格取得率の明確化をしなければならない。 |
| ③退学率の低減が図られているか | 4・3・②・1 | 資格に対する学生の意識の低迷と教員の学生に対する意識の乖離がみられる。 |
| ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4・3・②・1 | コロナ禍で同窓会の活動も止まりイベント（勉強会）などが実施できなかった。 |
| ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握して学校の教育活動の改善に活用されているか | 4・3・②・1 | 卒後のキャリア形成への効果を把握する術がないのが現状である。 |

<課題>

卒業生との連絡ツールが途絶えてしまっている事が大きな課題となっている。

<今後の改善方策>

コロナ禍で活動が止まっていた同窓会と情報交換し卒業生が集まるイベントを企画していく。

<特記事項>

特になし。

(5) 学生支援

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|--------------------------------|---------|---|
| ①進路・就職に関する支援体制は整備されているか | ④・3・2・1 | <p>キャリアサポート委員会を中心に就職支援を行っている。また、企業からの求人を1階ロビーに掲示し、情報収集の一助としている。(令和4年度求人企業約200社)</p> <p>就職相談会を本校主催で実施し、関東圏の求人治療院52社を本校に招き、学生とのマッチングを行った。</p> |
| ②学生相談に関する体制は整備されているか | ④・3・2・1 | <p>ハラスメント委員会を設置し学生の相談に対応している。相談方法は専用のメール、投書、電話等のツールを準備し、学生のしおりにも掲載している。</p> <p>心理カウンセラーの資格を持つ職員を雇用し、週に1回、学生生活に関わる様々な相談ができる環境を整えている。</p> |
| ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4・③・2・1 | <p>経済的な支援を必要とする学生に対しては、学生・保護者を交え奨学金等のアドバイスを行い、納入については延納、分割の提案を行い無理のない納入を提案している。</p> |
| ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか | ④・3・2・1 | <p>学校保健安全法に基づく健康診断を年に1回実施している。また、上述の心理カウンセラーが心の健康管理もおこなっている。</p> |
| ⑤卒業生・在校生のニーズを踏まえた教育活動が整備されているか | ④・3・2・1 | <p>正規の授業以外に外部の職業有識者を本校に招きゼミナールとして様々な講義を実施している。</p> |
| ⑥卒業生への支援体制はあるか | 4・③・2・1 | <p>同窓会との連絡を密にとるとともに、卒業生に対しても就職相談会の参加を案内している。</p> |
| ⑦保護者と適切に連携しているか | 4・3・②・1 | <p>成績不良者に対しては保護者を交えた面談を行っているが、一般の学生保護者に対しては学校からの情報は発信されていないのが現状である。</p> |

<課題>

- ・就職支援活動を通じて関係を持った企業との連携および就職後の学生の追跡調査
- ・学生のニーズ、現状を踏まえた知識・技術の向上を目的としたゼミナールの充実
- ・同窓会との連絡
- ・一般の学生保護者に向けた情報の発信

<今後の改善方策>

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・キャリアサポート委員会を中心として、就職先企業への訪問、定期的な連絡を行う・業界動向をいち早く察知し、ニーズや現状を踏まえたゼミナールの提案を行う・同窓会との積極的な意見交換の場を設け、同窓会の活性化を促す・メールや書面を用いて学生保護者・保証人に向けた本校情報の定期的な発信を行う |
|---|

(6) 教育環境

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|--------------------------------------|---------|--|
| ①施設・設備等は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか | 4・③・2・1 | 養成施設として法令や指導要領を遵守し、必要な施設、備品等は遺漏なく揃っている。また館内には Wi-Fi を整備し、授業等で使用する資料など、自身の端末で閲覧できるよう整備されている。 |
| ②学内外の臨床実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | ④・3・2・1 | 新型コロナウイルスの影響により海外基礎医学研修を開催できなかったが、解剖見学実習を1年次、2年次に別々の大学で実施できるようにし、学年相応の知識の習得が可能なカリキュラムを整えている。 臨床実習においては外部・内部で実施し、必要かつ十分な実習ができるように環境を整えている。 |
| ③防災に対する体制は整備されているか | 4・③・2・1 | 避難訓練を行い避難経路の確認を行っている。また非常用の食料や飲料水の備蓄を行っている。設備についても管理会社による定期点検を実施し、災害時に対処できるよう施設・設備の点検を行い不良箇所の整備を行っている。 |

<課題>

| |
|--|
| 施設・設備については経年劣化による水漏れ等の不具合や機器の故障が生じている。 |
|--|

<今後の改善方策>

| |
|-----------------------------------|
| 修繕計画を踏まえた予算組を行い、優先順位を付けた改修を行っていく。 |
|-----------------------------------|

<特記事項>

| |
|---|
| 新型コロナウイルス感染症の拡大により、フィリピンのデ・ラサール大学での海外基礎医学研修が実施できなかったが、令和5年度には再開予定である。 |
|---|

(7) 学生募集について

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|-------------------------------|---------|--|
| ① 高等学校等に対し、情報提供が十分であるか | ④・3・2・1 | 年間を通じて高校訪問を行い、広報活動(イベント周知・指定校推薦)を広く周知させていると共に、受験生・卒業生の資格取得状況等の情報提供を行っている。 |
| ② 学生募集活動は、適正に行われているか | ④・3・2・1 | 年間の募集戦略に沿い、該当期のターゲット層に適したイベントを行っている。また、募集状況に合わせて柔軟に募集戦略を修正し学生募集活動を実施している。 |
| ③ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4・③・2・1 | オープンキャンパスや学校説明会時に本校での学ぶ内容、資格取得までのサポート、卒業後の進路を明確に伝えた上で入学を検討してもらっている。 |
| ④ 学納金は妥当なものになっているか | ④・3・2・1 | 従来の日本学生支援機構の奨学金制度の説明や国の教育ローンの他、学納金の延納、分納等、個々の学生の事情に十分配慮し、柔軟な対応を行っている。 また厚生労働省所管の教育訓練給付制度も活用している。 学生には複数の奨学金制度を活用できるよう、随時、情報提供を行っている。 |

<課題>

高校生の受験検討者は上昇傾向にあるがその反面、社会人の資料請求者数が減少し、柔道整復師、鍼灸師の業界自体への興味、関心が薄れている現状が見られる。柔道整復師、鍼灸師について具体的な職業理解を欠いている受験検討者が少なくなく、今後より一層の丁寧な職業説明を行うことが不可欠である。

<今後の改善方策>

- ・オープンキャンパス時により一層柔道整復師、鍼灸師への職業理解への細かな説明を行う。生徒だけでなく保護者にも学校を十分に理解してもらう事で高校新卒者の入学を促進していく。

<特記事項>

なし

(8) 財務

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|---------------------------|---------|--|
| ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4・③・2・1 | 中長期計画に基づきバランス感覚を持って財政基盤の安定を図る運営に努めている。 |
| ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | ④・3・2・1 | 予算については入学見込み者数をベースに予算を作成し、目標収益を設定した上で、支出が収入を上回らないよう月ごとの収支バランスを取り、コントロールしている。 |
| ③財務について会計監査が適正に行われているか | ④・3・2・1 | 法人内に監査職を設置し、定期的な監査の他、理事・評議委員会の場で報告を行っている。 |
| ④財務情報公開の体制整備はできているか | 4・3・2・1 | 私立学校法における所定の形式に則り、学園の一部門として宝塚医療大学のホームページで公開している。 |

<課題>

新型コロナウイルス感染症拡大の影響、中長期計画の大幅な見直しが必要となった。また左記の件以外でも物価、光熱費等の大幅な値上げにより予算・収支計画の修正が必要となっている。

<今後の改善方策>

長期的な視野に立ち、新規事業の検討を行うと同時に、現有の部門における退学等のマイナス要素を減らすことにより、安定した収入を確保していきたい。

<特記事項>

なし

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|--------------------------------|---------|--|
| ①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④・3・2・1 | 専修学校設置基準、ならびにあん摩マッサージ指圧師。はり師、きゆう師に関する法律、柔道整復師に関する法律、及びあん摩マッサージ指圧師。はり師、きゆう師に関する法律、柔道整復師に関する学校養成施設認定規則、あん摩マッサージ指圧師。はり師、きゆう師に関する法律、柔道整復師に関する法律施行規則に基づき教育活動を行っている。 |
| ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | ④・3・2・1 | 学園が有する個人情報について、学園プライバシー・ポリシーに基づく適正な保護の実現を図っている。 個人情報保護規定に基づき、情報漏洩防止の観点からデータの取り扱い等のルールを策定して運用している。 PCソフトウェアの最新化、セキュリティー情報の収集など継続的に実施している。 |
| ③自己評価の実施と問題点の改善を行い、結果を公表しているか | ④・3・2・1 | 委員会を開催し問題点などを話し合い検討した結果をHP上に公開している。 |

<課題>

授業などでタブレットを使用することが増えてきたため学生自身も自己防衛できるような知識を身に付ける必要がある。

<今後の改善方策>

オリエンテーションなどでネットリテラシー教育等に取り組む必要がある。

<特記事項>

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 評価 | コメント |
|--|---------|---|
| ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4・3・②・1 | ラグビー大会等に教員をボランティアスタッフとして派遣をしてコロナ過が明けると学生が参加をできる下地を作成した。 |
| ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4・3・②・1 | 奨励、支援する体制にはあったが、新型コロナウイルス流行の為実施できなかった。 |
| ③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4・3・2・① | 実施される計画がなかった。 |

<課題>

コロナ禍であったため、学生が参加する社会貢献・地域貢献やボランティア活動に対する計画が実現できなかった。
ボランティア活動を積極的に行いながら、地域の人との交流、また学生に対して社会貢献する姿を見せるべきであった。

<今後の改善方策>

- ① 柔道の町道場を開設検討
- ② スポーツ大会などのボランティア活動等を学校から積極的に参加
- ③ 地域イベントへの参加
- ④ 地域住民に対し附属施術所のアピール

<特記事項>

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

| |
|--|
| |
|--|